

## 日本語教員養成コース FAQ

### <よくある質問>

#### 1. 科目名の後ろに書かれているアルファベットは何か。

→便宜上ついているだけで、授業の内容は同じ。

日本語教員養成コースの科目は全学科の学生が受講でき、クラスが決まっているわけではないので、自分の時間割に合わせて履修可能な時間を選択する。

#### 2. 科目名の後ろに、I、II、III、IVという数字がある科目は、Iから順に履修をしなければならないか。

→学びの順序としてはI・II・III・IVと履修することが望ましい。しかし、必修の科目との重複、留学などの事情により、順序が逆転したり同時履修になっても構わない。

#### 3. 一年次開講の科目は、一年生のときに履修をしなければならないか。学科の必修科目と被ってしまう場合、どうすればよいか。

→科目に書かれている「年次」はその学年から履修可能という意味で、絶対にその学年で履修しなければならないわけではない。「一年次」と書いてあったら、1年生から4年生までいつでも履修が可能。履修できるものから先に履修をしていく。ただし、春学期の科目を秋学期に履修することはできないので要注意（逆も同様）。

「日本語教育学I、II、III、IV」「日本文化基礎I、II」「日本語教育法I、II」は複数開講しているので、所属学科の必修科目と重ならない曜日があれば選択する。

#### 4. 「日本語教育教材研究I」を取りたいが必修の科目と被っている。対応策はあるか。

→「日本語教育教材研究I」は「日本語教育実習I」の準備科目なので本来は実習の前に履修する科目。しかし、必修と重なっている場合は必修を優先すること。3年春に実習科目を履修する際に担当教員に事情を説明し、助言を受けながら自力でテキストの理解を進めることになる。

#### 5. 「日本文化基礎I、II」は『履修の手びき』のどこに記載されているか。

→「日本文化基礎I、II」は、外国語学科の専門科目なので外国語学科のカリキュラムのページに記載されている。日文・英文・中文学科所属の場合は他学科聴講として履修する。他学科聴講申請の手続きは不要。他学科の専門科目の履修は、学部共通科目として日文・英文は16単位まで、中文・外国語学科は22単位まで認められている（これに関しては、履修計画全体に関わることなので、所属学科の教務委員の先生に相談をしたほうがよい）。

6. 「日本語教育学Ⅴ」の授業を Bibb's のシラバスで探したが見つからない。

→Bibb's のシラバス照会で検索する際に、「日本語教育学Ⅴ」で出てこなかったら、「日本語教育学」だけ入力して出てきた中から探す、などしてみる。

7. 履修単位数制限の緩和措置があるか。

→2022 年度入学以降の学生は緩和措置がない。2021 年度以前入学の学生は教授会の承認を経た上で4 単位を上限として緩和措置がある。所属学科の教務委員の先生に確認してほしい。

8. 時間割を組むにあたり、相談したいがどうすればよいか。

→まず、日本語教育研究室の先生に連絡し、日時を決めてから相談する。

### 〈実習関係〉

9. 「日本語教育実践Ⅰ、Ⅱ」の実践先について知りたい。

→この科目は2つの実践先「夜学」と「まつぶし日本語ひろば」がある。夜学の方は春学期と秋学期のどちらかひとつのみでも問題ないが、まつぶし日本語ひろばの方はできれば春学期と秋学期で継続して履修することが求められている。

10. 「日本語教育実践Ⅰ、Ⅱ」への登録を履修登録期間に決められず、履修登録修正期間で新たに追加する場合、2回目の授業から出席をしても履修することは可能か。

→2回目からでも授業に参加することは可能。ただし、1回目は欠席扱いになるので要注意。また、1回目に2つの実践先に分かれるので、2回目からだど希望の実践先に行けない可能性がある。

11. 海外実習の参加費はいくらか。

→現地実習の場合、おおよそ、シドニー実習は約55万円～、中国実習は約27万円～。  
(参加者人数、レートにより変動する)

12. 海外実習は、その国の言語を話せるなどの条件はあるか。

→教壇実習は直接法（日本語を使い日本語を教える）で行うため、外国語が話せるかどうかについて条件はない。ただし、希望者が多く選抜が必要な場合は1級（主専攻）登録者優先、コース科目の履修数が多い人優先などの条件が生じることがある。

### 13. 4年次に実習の授業を取る学生は、どのくらいいるか。

→実習Ⅰ…4年生がいるときもあればいないときもある

実習Ⅱ…4年生は単位が出ないため4年生の履修者は非常に少ない

実習Ⅲ・Ⅳ…4年生のみが対象なので、全員4年生

詳しい人数を知りたい場合は、日本語教育準備室にある実習報告書を見るとよい。

### 〈資格〉

### 14. 履修しなければならない科目名と単位の修得期間を知りたい。

→『教職課程・資格履修のてびき』に掲載されている（2024年度入学者用の場合、244頁、科目名の前に「○」がついている科目をすべて履修する。それらを含み、1級（主専攻）は46単位、2級（副専攻）と2級は26単位の修得が必要。単位の修得は卒業までに行う。

### 15. ○印の科目を含んで、とあるが必ず○印の科目全てを取らなければならないか。それとも1つでも取っていれば他の科目でもよいか。

→「○」がついている科目は、どの資格でも必ず全て履修する。ただし、日文と外国語学科は一部学科科目での読み替えが可能。

日文…「日本語学概論Ⅰ・Ⅱ」→「日本語教育概論Ⅰ・Ⅱ」

「日本語史Ⅰ・Ⅱ」→「日本語教育学Ⅰ・Ⅱ」

外国語学科…「異文化コミュニケーション論」「多文化共生論」「言語コミュニケーション基礎論」から1科目のみが【社会・文化・地域に関わる領域】の科目に読み替えられる。

### 16. 以前登録した資格が1級か2級か忘れてしまった。確認することは可能か。

→教務課で確認できる。

### 17. 資格登録を変更したい。手続きの仕方を知りたい。

→教務課で所定の手続きをとる。教務課にて「教職課程・資格履修変更願」を受け取り、必要事項を記入して提出をする。中途放棄する場合も同様である。

### 18. 中・高教員免許と日本語教員資格の両方を取ることは可能か。

→2022年度以降の入学者は2級（副専攻）と2級は、すべての教職課程と併せて取得することができ。しかし1級（主専攻）取得は、所属学科と教職課程の種類によって異なる。『教職課程・資格履修のてびき』（2024年度入学者用の場合243頁）で確認する。

## 19. 登録日本語教員の資格と、本学の日本語教員養成コースの資格との関係について知りたい。

→「登録日本語教員」とは国から認定を受けた日本語教育機関で日本語を教えることができる資格の名称で、令和6年度から国家資格化する。試験（基礎試験・応用試験）に合格し、実践研修（実習）を修了した後、文部科学大臣の登録を受ける。日本語教員養成機関、実践研修機関として文化庁に登録されている高等教育機関や民間の養成機関で必要な単位を取った場合、基礎試験、実践研修は免除される。ただし、文化庁への登録申請は令和6年度に開始されるため、本学も含めてまだどの大学も登録していない。本学が教員養成機関、実践研修機関として登録されたのちには、本学の日本語教員養成コースの1級（主専攻）と2級（副専攻）の修了者は基礎試験と実践研修が免除され、2級の修了者は基礎試験のみ免除される。

### 〈外国語学科〉

## 20. 日本語教員養成コースに登録したら、英語キャリアコースやグローバルスタディーズコースに入らなくてもよいか。

→日本語教員養成コースは全学科共通のコースであり、英語キャリアコースとグローバルスタディーズコースは外国語学科のみのコースなので全く別物。外国語学科は2年生から英語キャリアコースかグローバルスタディーズコースのどちらかに必ず所属する必要がある。日本語教員養成コースは登録してもしなくてもよい任意のコースである。

日本語教育研究室作成  
2024年3月現在